

平成26年3月度定例自然観察会報告書

六甲山自然案内人の会

実施日：平成26年3月9日（日）
天候：晴れ
担当班：6班
テーマ：須磨の隠れ道を歩く
見所：六甲全山縦走路に併行してつづくこの知られざる道は途中会う人もなく、「隠れ道」と呼ぶのがふさわしく静謐かつ神秘的である。クロガネモチ、ヒメユズリハ、ウバメガシ、ヤマモモ、カゴノキ等の老木が過ぎし日の栄枯盛衰を語るかのようである。義経の一ノ谷奇襲攻撃を思いつつ散策を楽しめる。

参加人員：ビジター 32名、会員 27名、合計 59名

コース JR塩屋駅～旗振への隠れ道～旗振山～鉢伏山～妙見堂への隠れ道～一ノ谷川橋～JR須磨駅

配布資料 ルートマップ、このコースで特徴的に見られる植物リスト
タイムスケジュール

- 09:30 開会挨拶、オリエンテーション
- 09:45 登山道入口到着 樹木観察
- 09:55 旗振山へ
- 11:30 旗振山山頂（須磨浦山上遊園）
- 11:50 鉢伏山休憩広場にて昼食
- 12:30 妙見堂への隠れ道へ
- 14:00 妙見堂
- 14:30 一ノ谷川橋にて最終ミーティング
- 15:00 JR須磨駅にて解散

概要

参加者が合計59名となり集合場所の塩屋駅改札口出口が少し混雑したが、受付と開会挨拶を行いました。ビジターを3班に分け、それぞれ宮元講師、安岡講師、松本講師の案内で出発しました。登山道入口で、ヤマグワの巨木、ヒメユズリハ等を手始めにコース植物の観察を開始しました。

観察した植物や植生は、次頁にある松本直司氏作成の“このコースで特徴的に見られる植物”を参照してください。観察途中グッゲンハイム邸（塩屋異人館）、摂津（畿内の西端）の国と播磨の国との境界の境川、源平の一ノ谷の合戦、赤旗谷の由来、ウバメガシのやせ地適応力、植物光合成の仕組み等の説明がありました。

一ノ谷川橋でエキスパート講座と4月の定例自然観察会の案内の後、ビジターの方々をJR須磨駅まで引率し解散しました。

このコースで特徴的に見られる植物（確認順）

このコースの植生的特徴は海の間際に位置するため潮風に耐える海岸性樹木が圧倒的に多く見られることです。ある意味そのような植物しか生えていないといってもいいでしょう。またそれらの樹木が狭い範囲に集中的に見られることも大きな特徴です。植生としては里山的ではなく、比較的高木が多くそれなりの歴史を感じさせるのがこのコースの見所であるといえます。樹種としては決して多くはありませんがこのコースならではの樹木を見ることができます。以下観察順に樹木を記します。

◆旗振山 塩屋側登山道 入口～旗振山頂

・ヤマグワ		大木
・ウバメガシ	常緑	非常に多い
・ネズミモチ	常緑	多い
・ヒメユズリハ	常緑	非常に多い
・ヤブニッケイ	常緑	多い
・クロガネモチ	常緑	大木 多い
・ヒサカキ	常緑	多い
・ヤマモモ	常緑	非常に多い
・カクレミノ	常緑	非常に多い
・アベマキ		高木 多い
・シャシヤンボ	常緑	多い

◆鉢伏山休憩広場

◆鉢伏山隠れ道 入口～妙見堂

・ヒサカキ	常緑	多い
・ヤマモモ	常緑	多い
・ヤブニッケイ	常緑	多い
・カクレミノ	常緑	多い
・ヒメユズリハ	常緑	非常に多い
・カラスザンショウ		多い
・ウバメガシ	常緑	多い
・クスノキ	常緑	大木
・カゴノキ	常緑	高木 多い
・モッコク	常緑	高木
・リョウブ		多い
・トベラ	常緑	
・アラカシ	常緑	
・ムクノキ		高木

◆一ノ谷川 下山

コースで確認できた草本を列記します。
ナガミノヒナゲシ、ホトケノザ、ヒメツルソバ、ヒメウズ、ブタナ、ヒメオドリコソウ
オオイヌノフグリ、ツルニチニチソウ、コ克蘭、ミヤマウズラ、ツルアリドオシ、
ツタバウンラン 等でした。

以下 写真です。(安岡氏、刈谷氏提供)



観 察 状 況



ツルアリドオシ



コ克蘭

以上 山取 記